



御修復のあゆみ 〱 伝承された先達の願ひ 〱

御修復の願ひを新調瓦に込めて 〱 阿弥陀堂の瓦記名印刷開始 〱

真宗本廟両堂等御修復事業の趣旨に賛同いただいた多くの方々のお名前を、間違いない形で瓦に留めるため、「瓦記名印刷システム」を用いた阿弥陀堂新調瓦への印刷が開始されました。

この「瓦記名印刷システム」は、御影堂御修復の際に新調される瓦にお名前を印刷するために、大日本スクリーン製造(株)の協力を得て検討を重ね、最先端の印刷技術のもとで開発されたシステムです。瓦という曲面を持つ焼物の素材に對して柔軟に對応するため、試行錯誤が繰り返されシステムが開発されました。

に瓦への記名を行っている例は他にもありますが、瓦へ直接墨と筆で書きする方法が一般的でした。宗派は、修復工程に影響を与えず、確実に自筆のお名前を留めることができ、さらには修復中に瓦が破損した場合であっても、再印刷が可能なものとして管理できる記名方法を模索した結果、この「瓦記名印刷システム」を採用し、御影堂の瓦記名印刷で十分な成果を挙げました。そこで、このたびの阿弥陀堂の瓦記名印刷でも使用するこゝといたしました。

新調瓦に瓦記名印刷を行い、既に御影堂に尊かせていただきました。このたび阿弥陀堂の瓦記名印刷を開始するにあたっては、御影堂と阿弥陀堂の瓦の大きさの違いにかかるシステムの再調整や機器の点検・修理などを行い、二〇〇七年一月から瓦記名の申し込みをいただきました十万人を超える方々のお名前(二〇一二年十月末現在)の印刷を順次行っています。引き続き、二〇一三年六月末まで阿弥陀堂新調瓦への瓦記名申込を受け付けておりますので、ぜひ真宗本廟両堂等御修復事業の趣旨に賛同いただき、お申込くださいますようお願いいたします。

瓦記名印刷所 開所式

瓦記名印刷開始に先立って、去る11月1日には、阿弥陀堂素屋根2階に設けられた瓦記名印刷所の開所式が執り行われ、1枚目の新調瓦に瓦記名印刷を行いました。

この開所式では、宗派をはじめ、大日本スクリーン製造(株)や屋根改修工事を請け負っている阿弥陀堂屋根改修工事共同企業体の方など、御修復工事に関わる方々も出席され、ご懇志という形で瓦に託された多くの方々の願ひを受け止めて、御修復事業を行っていくことが、あらためて確認されました。



記名印刷が完了した新調瓦の出来栄を参列者に披露しました。

瓦記名印刷の流れ

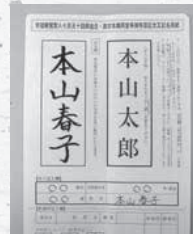
1 まず各所から届けられた「瓦記名用紙」のスクリーン入力が行われます。用紙に書いた文字をそのまま印字するため、遠隔地の方でも転記の間違いがなく記名をすることが可能です。



瓦記名印刷所(阿弥陀堂素屋根2階)

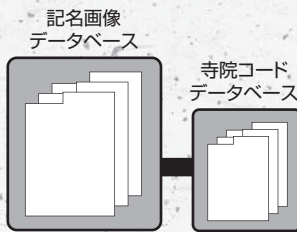
記名用紙のスクリーン入力

2 「瓦記名用紙」赤枠内の文字が画像データとして、システム内に記録・集積されていきます。



瓦記名用紙

3 その画像データは、システム内の寺院・教会データに照会され、同じ寺院・教会ごとに振り分けられた上で、集約されていきます。



4 その後、各寺院・教会単位で記名印刷の自動レイアウト処理が行われ、その際、「細く書かれた文字は太く」「小さく書かれた文字は大きく」「偏って書かれた文字は自動的に大きくなります。」



5 印刷所内は一定温度で管理され、その後一枚つづ瓦の印刷面が整えられます。



6 システム内で、特殊インクを用いた記名印刷処理が約五分間行われます。このシステムには一時間で約十二枚、月産二千枚の処理能力があります。



印刷機に新調瓦をセットします

7 記名印刷が完了した新調瓦は、瓦置き上げの時期まで再びパレットに保管されます。



完成して出てきた瓦